

2040年に向かって、町田市のなりたいまちの姿や行政経営のあり方を描くためには、市を取り巻く社会経済状況の変化を好機ととらえ、市の特性を生かしながら、まちづくりや行政経営の進むべき方向を明らかにする必要があります。

これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。このことを踏まえ、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市が考えるまちづくりの方向性と行政経営の方向性を以下のように整理します。

### 1 子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019年度に行った調査では、町田市の希望出生率は1.91という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率は1.24前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望が叶っていない状態にあるといえます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望を叶えていく必要があります。

町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していつてくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていきたくて、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てること、このことを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくってほしいという願いを込め、(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、**高齢者や障がい者など、みんなにとってやさしい**まちです。町田市は2040年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。

#### 含まれる要素

- ・子どもを産み育てる希望を叶える
- ・少子化対策
- ・社会への信頼度を上げる
- ・地域全体の幸福度を上げる
- ・子育て支援
- ・出生数の増加

- ・生産年齢層、高齢者層の支援
- ・子どもにやさしいまちづくり(CFCI)
- ・転出抑制、転入促進
- ・持続可能なまちづくり
- ・気候変動への対応

### 2 ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今は大きく異なっていることが予想されます。

時間や場所などにとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。

長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちょうどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといちようよさとは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、近くに働く場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっとした環境があるということが挙げられるかと思えます。

一方、働き方の変化などによってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちょうどよく手に入るということが大事になってきます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちょうどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、**学ぶ人**、近隣に暮らす人たちが誰もがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、「いいことふくらむ」まちづくりを進めます。

#### 含まれる要素

- ・テクノロジーの発展
- ・女性、高齢者などの就業率上昇(働き手の多様化)
- ・町田の特色
- ・働く場の創出
- ・交通基盤強化

- ・職住近接にプラスα
- ・就労・創業支援
- ・**学習支援**
- ・産業振興、農業振興、観光振興
- ・北部丘陵等の豊かな自然環境
- ・気候変動への対応
- ・市民協働
- ・他都市からの流入促進

### 3 人と人がつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの方が支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。誰もがかつては子どもであり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができてきているような関係性がいつの時代も求められているといえます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人とのつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながれることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震などの大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。

性別、年齢、国籍などの違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯生き続けたいと思える愛着が生まれるのではないのでしょうか。

更に、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心への取組など、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、**お互いに学び合い、高め合うことで**、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。多様性を認め合うことが当たり前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

#### 含まれる要素

- ・まちが家族する
- ・高齢者支援、子育て支援、障がい者支援
- ・元気高齢者の活躍
- ・防災安全
- ・気候変動への対応

- ・多様性を認め合う
- ・地域への愛着醸成
- ・市民協働
- ・住民自治の推進
- ・地域への権限移譲
- ・地域への誇りや責任の醸成
- ・多様性に基づく新たな価値の創出